

授業概要

平成 29・30 年度告示学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」の実現が明記された。これを踏まえて、昨今の国語科教育では、教育者による一方的な教授だけでなく、学習者主体の探究型学習を実現していく教育方法や学習支援のあり方、「探究」を基軸とした高大連携の方法などについて議論が重ねられている。以上を踏まえて、本授業では、受講者自身が学習者主体の探究型学習を体験することを通じて、国語科の探究型学習を構想できるようになることを目指す。そのため、国語科における探究型学習の実現に関する知識や議論について講義し、文学教材を題材とした探究型授業の構築や学習指導・支援の方法を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：探究型学習を実現する国語科授業の基礎・基本
第 2 回	テキストから問いを形成する
第 3 回	データベースの作成と利用
第 4 回	さまざまな情報の探し方を活用する
第 5 回	国語科の探究型学習と文章ジャンル：「論証」の機能
第 6 回	情報の吟味と批判的思考：パラグラフ・リーディングの技法
第 7 回	「はじめに書き尽くす」：序論の執筆
第 8 回	中間報告とディスカッション：主張の鍛え直しとテキスト再考
第 9 回	探究型学習と文章作成法：パラグラフ・ライティングの技法
第 10 回	「主張を確からしく論証する」：本論・結論の執筆
第 11 回	学習支援と共同推敲
第 12 回	探究型学習の成果とアウトプット（プレゼンテーションの技法を含む）
第 13 回	探究型学習と評価：パフォーマンス／プロダクトとルーブリック
第 14 回	探究型学習をめぐる倫理的問題と国語科の役割
第 15 回	まとめ：探究型学習による文学教育と国語科授業の拡張
第 16 回	授業成果物・期末課題の提出

到達目標

- ・ 探究的な学習の構築に対する主体的な態度が教育者・学習者双方の立場から涵養することができる。
- ・ 文学教材を題材とした探究型学習の実現において必要な基礎的事項を理解することができる。
- ・ 探究的な国語科授業の学習指導や支援の方法を考案・実践することができる。

履修上の注意

- ・ 10 分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。
- ・ Teams を使うため、情報機器（PC 推奨、タブレット端末・スマートフォン等も可）を毎回持参すること。
- ・ 毎回のリアクションペーパーについて、欠席回および遅れて提出されたものについては原則成績に参入しないので注意すること。ただし、実習等やむを得ない事情がある場合は考慮するので必ず事前に申し出ること。
- ・ 本授業は「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の内容を前提として実施するため、履修済みであることが望ましい。

予習・復習

- ・ 予習：授業の進捗に応じて適宜指示する。
- ・ 復習：毎回のリアクションペーパー作成を通じて丁寧に行うこと。詳しくは初回に案内する。

評価方法

- ・ 授業各回の内容理解：30%（リアクションペーパー（毎回提出）の内容で評価する）
- ・ 授業内容の理解と取り組み：50%（授業内成果物の内容で評価する）
- ・ 授業全体の内容理解と考察：20%（期末課題で評価する）

テキスト

- ・ 阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、2024 年、ISBN：978-4-334-10380-4
- ・ その他、資料を配布する